

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会（第 21 回）議事録

日時：2024 年 3 月 8 日（金） 14：00～16：00

場所：斜里町公民館ゆめホール知床 公民館ホール

議題：

1. 2024 年度の事業計画について
 - （1）カムイワッカ湯の滝利活用検討事業について
 - （2）マイカー規制とシャトルバスの運行計画について
 - （3）知床ディスタンス！キャンペーンの取組みについて
2. その他

配布資料：

資料 1-1	2024 年度 カムイワッカ湯の滝 利活用検討事業計画（案）
資料 1-2	2023 年度の収支見込みと来年度の事業予算の考え方
資料 1-3	2024 年度 シャトルバス運行計画
資料 1-4	2024 年度 知床ディスタンスキャンペーン実施計画
資料 2	カムイワッカ地区におけるその他の取組み予定について
参考資料 1	2023 年度 カムイワッカ湯ノ滝のぼりパンフレット（再掲）
参考資料 2	カムイワッカ現地概念図
参考資料 3	2024 年度 カムイワッカ湯ノ滝のぼりリーフレット（案）
参考資料 4	2024 年度 運用スケジュールと祝休日カレンダー（再掲）
参考資料 5	第 20 回カムイワッカ部会 議事録

出席者名簿：

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 12 名		
知床自然保護協会	理事	綾野 雄次
斜里山岳会	理事	寺山 元
羅臼山岳会		欠席
北見地区バス協会 斜里バス株式会社		欠席
株式会社斜里ハイヤー		欠席
NPO 法人 知床斜里町観光協会	事務局長	新村 武志
知床温泉旅館協同組合		欠席
ウトロ自治会	会長	米澤 達三
知床ガイド協議会	会長	岡崎 義昭
一般財団法人 自然公園財団 知床支部	主任	向山 純平
一般財団法人 自然公園財団 知床支部		伊治 弘貴
株式会社ユートピア知床	代表取締役	櫻井 晋吾
株式会社ユートピア知床	営業部 五湖 課長	吉田 和彦
ウトロ地域協議会	事務局長	桜井 あけみ
ウトロ地域協議会	事務局	渡辺 誠
公益財団法人 知床財団	事務局長	高橋 誠司
【関係行政機関】 2 名		
国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 技術管理課	課長補佐	杉尾 幸宣
北海道運輸局 北見運輸支局	首席運輸企画 専門官	山本 祐幸
北海道警察 北見方面斜里警察署 地域交通課		欠席

機 関 名	職 名	氏 名
【事務局】 18 名		
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席国立公園 保護管理企画官	家入 勝次
環境省 ウトロ自然保護官事務所	国立公園利用 企画官	井村 大輔
環境省 ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	加倉井 理佐
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	署長	早川 博則
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	清水 亜広
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	川崎 文圭
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	寺田 崇晃
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	道路課長	島 豊
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	主査(道路)	塩見 秀之
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	主査(道路第一)	谷 暢浩
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	主任	近藤 尚行
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	専任主任	梶田 育暁
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 くらし・子育て担当	部長	永安 芳江
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分室	主幹	椿原 匠
斜里町役場 総務部 環境課	課長	結城 みどり
斜里町役場 総務部 環境課 自然環境係	係長	吉田 貴裕
斜里町役場 産業部 商工観光課	課長	河井 謙
斜里町役場 産業部 商工観光課 観光係	係長	岩渕 聖也
【運営補助】 4 名		
公益財団法人 知床財団 事業部（公園事業担当）	参事	秋葉 圭太
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)	係長	片山 綾
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)		茂木 瑞稀
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)		米田 紗衣

【開会あいさつ】

環境省（井村）：開会に先立ち事務連絡を申し上げる。本会議は公開での実施であり、議事録は後日 web サイトで公開する。記録のため、発言の際はマイクを使用し、冒頭に氏名と所属を述べていただきたい。本日の会議は 16:00 の終了を予定している。配布資料の確認は割愛するが、不備等あれば事務局へ申し出ていただきたい。開会に先立ち事務局を代表し、ウトロ自然保護官事務所の家入より挨拶申し上げる。

環境省（家入）：本日は年度末の忙しい中、参集いただき感謝申し上げる。事務局代表の挨拶ではあるが、環境省で力を入れて取組んでいる政策について紹介したい。現在、全国の国立公園を対象にインタープリテーション全体計画の作成を進めている。インタープリテーションとは国立公園や世界遺産などの観光地などにおいて、地域の魅力や価値を来訪者と共有するためのコミュニケーションを指す。この計画は雲仙温泉地区で既に実績があり、今年度は上高地でも計画作りに取り組んだ。来年度、知床においても計画づくりとその骨子となるストーリーについての検討を進めたいと考えている。また、来年度から知床エコツーリズム戦略の改定作業にも取組む予定だ。この 2 つを併せて全体の枠組みを策定しながら、カムイワッカのあり方についても検討していきたい。本会議では来年度事業の詳細について議論を行う予定だ。皆様の忌憚のない意見をお願い申し上げる。

環境省（井村）：それでは議事に移る。議事および配布資料は議事次第に記載されている通りだ。司会進行は斜里町役場の結城環境課長にお願いする。

【議事】

1. 2024 年度の事業計画について

（1）カムイワッカ湯の滝利活用検討事業について

資料 1-1、資料 1-2 について斜里町（岩渕）が説明

斜里町（結城）：資料 1-1 と資料 1-2 について皆様から意見はあるか。

ウトロ地域協議会（桜井）：資料 1-2 で危険負担金についての説明があったが、改めて危険負担金の位置付けや取り扱いについて教えて欲しい。

斜里町（岩渕）：危険負担金とは事業期間中に想定外の有事が発生した際にも赤字にならない運営体制を構築するため、積み立てている費用だ。例えばカムイワッカで落石等があ

り、湯の滝を閉鎖しなければならない事態となった場合、準備にかかった経費は支払わなければならないが、利用者からの収入はなくなってしまう。そういった際にも危険負担金を積み立てておけば、そこから一部負担することが可能だ。危険負担金を含めた詳細な決算書については6月に開催を予定している知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会で報告をする予定だ。危険負担金としての積み立て目標金額は、年間事業費の約3分の1程度と考えているが、2023年度の予定額ではこれに達しないため、今後積み立てを継続し、安定的な運営に繋げたい。

ウトロ地域協議会（桜井）：利用者に対するリスクマネジメントやリスク対応の際に使用する費用ではなく、あくまで事業期間中に有事が発生した際に使用するという理解で良いか。

斜里町（岩渕）：その通りだ。経営を安定化させるための費用だ。例えば新型コロナウイルスなどの社会情勢により事業収入が大幅に下回った際にも事業を継続するための費用としての使用などが想定される。

ウトロ地域協議会（桜井）：ランニングコストか運営費、どちらに含まれるのか。

斜里町（岩渕）：運営を安定化させるために積み立てている位置づけだ。運営費の一部という理解で良い。

ウトロ地域協議会（桜井）：来年度は助成金がないため総予算規模は昨年度の3分の1程度となるとの説明であったが、そうなることを見越したうえで危険負担金を設けたのか。

斜里町（岩渕）：そうではない。カムイワッカ事業は単体で運用しており、仮に赤字になった際は補填できる費用がないため、有事の際に使用できる費用を積み立てている。

ウトロ地域協議会（渡辺）：利用料金の値上げの根拠を教えて欲しい。仮に今年度同様の料金体制で同等の利用人数が来た場合は赤字になるのか。

斜里町（岩渕）：昨年からの繰り越しも発生しているため、今年度と同じ利用料金で運営をしたとしても赤字にはならない。ただし、収支バランスが安定するかは別と考えている。来年度は試行事業が最終年ということもあり、料金を変更することで利用者の反応や利用への影響を検証したいという趣旨でもある。

ウトロ地域協議会（渡辺）：仮にご提案いただいた10%の値上げをした場合、利用者数は何人であれば黒字化するのか。

斜里町（岩渕）：来年度の目標利用者数は8,000人に設定しているが、これは収支の黒字化を保証する人数として設定した数値ではない。

ウトロ地域協議会（渡辺）：承知した。悪天候時などレベルに応じて閉鎖条件を設けているとのことだったが、こういった場合の返金対応はどう対応していたのか。

知床観光協会（新村）：今年度、決済対応を担当した観光協会から回答する。利用者都合による無断キャンセルについては原則として全額を徴収したが、天候等のやむを得ないキャンセルについては全額返金対応とした。

ウトロ地域協議会（桜井）：そもそも今年度、大人と小人の利用料金はこういった根拠を基に設定したのか。また来年度は値段を変更し、検証したいとのことだったが、利用者はどのくらいの値上げなら許容できるのかを検証するということか。

斜里町（岩渕）：今年度も当初は大人の利用料金を 2,200 円で提案したが、高いという意見もあり最終的には 2,000 円とした。実施後の利用者アンケートでは、2,000 円が高いという意見は少ないという結果が得られたことから、当初予定していた 2,200 円を改めて提案させていただいた。来年度も同様に利用者アンケートを実施し、利用者の意見を鑑みながら決定したい。

ウトロ地域協議会（桜井）：カムイワッカ湯の滝の事業は、利用者に世界自然遺産の中で素晴らしい自然景観を堪能してもらうというのがベースにあった。仮にカムイワッカ湯の滝が個人の所有物だとすれば、そこに収益性を求めるのは理解できる。ただし、カムイワッカは国立公園であり、元々自由に利用できた場所だ。ガイド利用については、ガイドのスキルなどを加味し、値上げするのは理解が出来る。一般利用の料金の算定は、事業を運営するのに必要な経費から割り出すべきだ。値上げをする考え方や根拠が不明確ではないか。

斜里町（河井）：根本的に、カムイワッカの事業経費を利用負担ですべて賄うべきかどうかについては事務局としても迷いがあり、議論が必要な点だ。こういった公園利用の仕組みとして実施する事業費の負担のあり方については、固まった考え方がない。現状では運営費の大部分については、利用者負担により賄うという考えを採らざるを得ない。また先程議題に挙げた危険負担金の制度は、既に知床五湖の厳冬期エコツアーで導入している。新型コロナウイルスの影響により、利用者が 3 分の 1 に減少した際にも運営を持続することが出来たのは危険負担金としての積み立てがあったからだ。カムイワッカでも同様に、危険負担金を積み立てることで不測の事態が発生した際にも運用が続けられると考えている。また、運転資金として金融機関から借入れを行っているが、現在は協議会会長個人が債務保証をしている。一定額の積立金があれば、担保ともなり資金調達も円滑化するといった利点もある。そういった背景から、事業を円滑に運用するためには、おおよそ 3,000 万円程度の資金を積み立てたいと考えている。桜井氏の指摘通り、利用料金の設定に対する考え方について議論の余地があることは承知している。ただ現実問題として、来年度は大型の助成

金がないことも踏まえ、余力のある運用のため、当初設定していた 2,200 円を事務局としては提案させてほしい。収益が上がれば現地体制やサービス面をさらに充実することもできる。

ウトロ地域協議会（桜井）：今年度の細かな決算書や予算書を見ないと、利用料金の値上げについては協議できないため、6 月の知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会で改めて確認したい。また一部から今年度の利用者数に対して、怪我などの受傷事例が多かったのではないかという声が挙がっている。さらに受傷者が発生した際の現地補助員の対応が円滑ではなかったと聞いた。カムイワッカにおけるリスク管理は、リスクを減らすという事ではなく危急時にどういった対応をするかが重要だ。今後取り組むリスク管理があれば教えて欲しい。

斜里町（岩渕）：事務局としては受傷者が発生した際の現地補助員の対応は迅速で的確であったと認識している。なぜなら保険の適用となる比較的大きな怪我をされた利用者へは直接電話連絡をしているが、その際の反応として現地補助員の対応が非常に早急でありがたかった、という声が多かった。

自然公園財団（向山）：現地の運営に関わっていた立場から発言する。来年度の人員体制については未確定な点があるが、自然公園財団としては職員の救命講習の受講を推奨し、他機関とも協力して取組みたいと考えている。カムイワッカは全域閉鎖となる場所を事前予約制の導入や現地に補助員を配置することで利用機会を創出することができたと認識している。利用料金については、利用者アンケートからも高い満足度が得られていることから 10%の値上げは適当かと思われる。

斜里町（結城）：リスク管理や利用料金の値上げについて意見をいただいた。その他、意見はあるか。

知床財団（高橋）：この検討事業の目指すべきゴールがどこに設定されているのか改めて確認したい。利用料金の値上げについても設定された料金が妥当かは別として、本格運用を安定的に行うために必要不可欠なことだと認識している。来年度までの試行事業は、あくまで本格運用に向けた課題検討と運営体制構築の準備期間という理解で良いか。

斜里町（岩渕）：資料 1-1 に提示した事業計画においても、本格運用を見すえた検証項目が組み込まれている。事務局としては、検討事業終了後は本格運用を目指すものと考えており、利用料金の値上げも中長期的な視点からの提案だ。

知床財団（高橋）：知床で発生した海難事故の信頼回復が求められる時期でもあり、利用者へ事前にリスクを明示して、想定されるリスクに対してマネジメントする取組みは重

要だ。また、本事業のように一定のルールや制度の下でアクティビティや利用機会を提供するプログラムを増やして提供していくことは、現在策定中の第 7 次斜里町総合計画の方針とも一致する。

単なる局地的な観光地づくりではなく、アクセス面も併せてカムイワッカ園地全体の魅力向上が必要と考えるからこそ知床財団としても検討事業にコストをかけながらコミットしてきた経緯があるし、新たな事業領域としてもイメージしてきた。決して時限的なものに終わらせるべきではない。本日の部会でこの検討事業を本格運用に繋げるという強い覚悟を全体で再度確認し、方向性について大筋合意を目指すべきだ。

斜里山岳会（寺山）：事業の目的としてはカムイワッカの価値向上に繋げ、持続的に地域経済に貢献することであり、その目標達成に必要であれば値上げの選択肢は理解する。目標人数を設定した際の議論経過が分からないので教えて欲しい。来年度の 8,000 人という目標人数は、カムイワッカ地区全体の許容人数などの議論をした上で設定されたものなのか。議論の経過が分かれば、値段を抑えて利用者数を増やすべきかなどの目指すべき方向性が見えやすいので発言した。

斜里町（岩渕）：現行のルールや運営体制を前提として、事業を安定的に運営するためには、最終的にはおよそ 1 万人の利用者数が目標と見積もっている。今年度は観光庁から支援を受け事業を運営したが、事業内容や今後のポテンシャルについて高い評価を得た。こうした外部評価も踏まえ、高めの目標人数を設定した。

斜里山岳会（寺山）：利用者数を伸ばす方針で合意しているということで理解した。また先程リスクの話もあったが、山岳会としては、カムイワッカは山岳エリアだと考えており、今年度程度の利用者数に対する受傷事例の件数は妥当だと思う。むしろ骨折や救急車要請といった事故や怪我の事例は利用者へ積極的に明示した方が良い。受傷事例を利用者に公開し、レクチャーを受けてもらう仕組みが利用者にとってもフェアだ。

知床財団（秋葉）：指摘の通りだ。カムイワッカは前提としてリスクのある場所であり、これを事前に認識し、同意した上で利用してもらうことが重要だ。リスクを伝えるためには、現地でも危険度合や受傷事例をリアルタイムで伝えることが重要だと感じた。来年度は現地でも掲示物などを使いながら利用者へ最新情報を提供していきたい。データを紹介すると、今年度は 6,049 人の実績に対して受傷事例は計 30 件、うち 1 件が救急搬送されている。現場の感覚としては現地補助員の対応により事故発生を未然に防いだものと感じている。ただし、現地補助員のスキルや対応能力の向上は重要な取り組み課題と認識している。

ウトロ地域協議会（桜井）：マイカー規制期間についてだが、今年度が 29 日間だったのに対し、来年度のマイカー規制期間が 10 日間へ短縮された理由を教えて欲しい。また期間が短くなったということは経費も軽減するという理解で良いか。

知床財団（秋葉）：今年度は湯の滝の利用可能範囲が拡大したことで利用者の滞在時間が延び、繁忙期には駐車場が不足することが予測された。また、事前予約制が導入されたが、初年度でもあり制度を知らずに大量の車両が現地に入り込んだ場合、現場での混乱や負担が発生する懸念があった。そのため、マイカー規制期間を長めに設定した。一方、今年度の運用結果から、周知や情報提供を強化すれば、特定期間以外は渋滞や混乱の懸念は少ないことが明らかとなった。

一方、マイカー規制の利点もあり、事務局としてはできるだけ長期間設定したいという思いはある。しかし、マイカー規制の運用には非常にコストがかかり、今年度の実績を踏まえれば、運行機材や運行方法の体制を見直さない限り、助成がなければまったくペイできない。運営経費の面からはマイカー規制期間を短縮せざるを得ないというのが現状だ。

ウトロ地域協議会（桜井）：昨年度カムイワッカ湯ノ滝のぼりに参加した利用者より、他エリアと比べて子供料金の設定が良心的という声があった。子供料金が昨年度は 500 円だったのに対し、1,100 円と大幅な値上げに至った理由を教えて欲しい。

斜里町（岩渕）：昨年度、マイカー規制期間の子供料金がアクティビティに参加する場合は 500 円なのに対し、バスのみ運賃が 650 円と逆転現象が生じていた。これを適正化するために再設定した。

斜里町（結城）：ここで一度休憩を挟み、15:25 より議事を再開する。

<休憩>

斜里町（結城）：議事を再開する。収支見込みや利用料金の考え方について、事務局から補足説明する。

斜里町（岩渕）：利用料金について、多数の意見をいただき感謝申し上げます。事業に必要な経費を勘案し、継続的かつ安定的な運用を実現するためには、利用料金としては年間 2,000 万円程度の収入が目標と考えている。来年度の利用料金を大人 2,200 円に値上げし、目標人数の 8,000 人を達成しても収入見込みは 1,760 万円程度であり、目標水準の収入には達しない試算となる。しかし、利用料金を上げすぎると利用者数が減る可能性もあり、価格が受容されるかの観点も必要である。中長期的には、さらなる利用者数の増加、事業期間の延長、経費の削減などの努力を重ね、収支バランスを均衡化させる展望だ。また、ご意見のあったマイカー規制期間の子供料金については、1,100 円ではなく 800 円程度にとどめるなどの再検討の余地があるため、再検討したい。子供の料金設定の再検討を前提に利用料金の値上げについて承認をいただきたい。

斜里町（結城）：マイカー規制期間の子供料金は再考することを前提とし、協力金の収入を目標金額である 2,000 万円に近づけるために利用料金を 10% 値上げさせてほしいとの説明だ。この点について皆様から意見はあるか。

ウトロ自治会（米澤）：子供料金の再考については賛成だ。

斜里町（結城）：次年度の詳細な事業予算については 6 月の知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会で協議する。子供料金は再考したうえで事務局が提案した利用料金で周知広報を進める。その他意見はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：質問が無いようなので議事 1 の（1）を終了する。続いて議事 1 の（2）について説明をお願いします。

（2）マイカー規制とシャトルバス運行計画について

資料 1-3 について斜里町（吉田）が説明

斜里町（結城）：来年度のシャトルバス運行経路については資料 1-2 の 8 ページに示した通り、2 案を提示した。運行経路をメインに意見を伺いたい。

知床観光協会（新村）：今年度はカムイワッカ直通バスとは別に、知床五湖の渋滞対策として繁忙期に路線バスの増便を実施していた。来年度は路線バスの増便は想定しているか。

斜里町（吉田）：今年度も知床五湖にて渋滞が発生した日があったことは認識しているが、案①の場合は路線バスの増便は考えていない。案②となれば、知床五湖も経由するため五湖の渋滞対策にも寄与できると考えている。

斜里町（結城）：その他意見はあるか。

ウトロ地域協議会（桜井）：今年度、アクティビティに参加せずに、シャトルバスでカムイワッカを訪問した利用者はどの程度いたか。

知床財団（秋葉）：データを紹介する。湯の滝の利用方法が変わったことでシャトルバス全体の乗車人数は大きく減少した。29 日間のシャトルバス運行期間の総乗車人数は 2,878 人で 1 日に換算すると 100 人弱の実績だ。このうちバスのみ利用者数は、片道のみ利用者も含めて 202 人で全体の約 7 % と僅少であった。そのほとんどは登山者であ

り、登山者以外の利用はほとんどなかったと認識している。

ウトロ地域協議会（桜井）： 今後は公共交通として、バス以外の方法も検討してほしい。新たな公共交通機関の創出は運営側にとっても、利用者側にとっても利便性は上がると思う。

商工観光課（河井）： 現行の運用体制では、公共交通機関で知床に訪問し利用者がカムイワッカに行く手段は、マイカー規制期間のシャトルバス以外にほとんどないのが現状であり、課題と認識している。一方でマイカー規制期間を延長すると収支が悪化するため、マイカー規制期間を 10 日間に短縮せざるを得ないと判断した。今後はサイクリングツアーの充実化や自家用有償旅客運送など新たな方法の検討の必要性を感じている。

ウトロ地域協議会（桜井）： 利用者が満足できる体制を構築していくことが重要であり、どのようにすれば構想を実現できるかという前向きな視点で検討してほしい。

知床財団（高橋）： 路線バスの増便事業は実施しないとの説明であったが、参考資料 4 の通り、来年度の 8 月のお盆期間は曜日の並びがよく、大型の連休になるため知床五湖では渋滞が予測される。カムイワッカ直通バスには空席があるのに対し、知床五湖では渋滞が起きているというのは環境面でも費用面でも効率が悪い。現場のオペレーションが複雑化することも理解したうえで、知床財団としては案②の知床五湖経由が妥当だと考える。

斜里町（結城）： 知床五湖を経由する方が良いということで意見をいただいた。その他意見はあるか。

知床観光協会（新村）： 今年度、時間帯によってはバスがほぼ満車の時があり、特にお盆時期は乗車可能人数に対して 6、7 割程度の乗車率だったかと思う。そのあたりのデータがあれば教えて欲しい。

知床財団（秋葉）： 指摘の通り、五湖を経由した場合は途中の乗降が発生し、乗車人数が予測できず、混雑時には満車で乗れない、という状況の発生が懸念される。特に夕方の復路便は混雑する可能性が高く、過去には乗り切れない事例もあった。

今年度はシャトルバスが 11 往復しており、単純計算で席数は片道で 500 席強を確保したと計算となる。今年度の実績で最も混雑した日の乗車人数でも 208 人であり、乗車率は 50% 以下だ。また、予約制の導入により、利用時間も分散しており特定の便に集中したり、満車になる等の事象は発生していない。

今年度のデータから予測すれば、現行の運行便数を確保すれば五湖を経由したとしても乗車できない利用者が発生することは考えにくい。ただし、オペレーションや説明のコストは高くなることは確かだ。

斜里町（結城）：その他、意見はあるか。

斜里町（吉田）：先程の新村局長からの質問に対し、路線バスの増便事業は予定していないと回答したが、五湖を経由しない案①となった場合は限定的な日数での路線バス増便事業を再度検討したい。

斜里町（結城）：ここでの議論結果を踏まえ、来年度の運行計画については斜里バスと協議をしたうえで採集決定したい。それでは議題 1 の（2）を終了し、議事 1 の（3）について環境省より説明する。

（3）知床ディスタンス！キャンペーンの取組みについて

資料 1-4 について環境省（加倉井）が説明

斜里町（結城）：来年度の知床ディスタンスキャンペーンの実施計画について説明を受けた。昨年度同様、イベントの普及啓発などに取り組むとのことであったが、この点について皆様から質問はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：質疑等が無いようなので次の議題に移る。議事 2 について環境省より説明する。

2. その他

資料 2 について環境省（井村）が説明

斜里町（結城）：皆様から意見はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：事務局として用意している議題は以上だ。円滑な運営にご協力いただき、感謝申し上げます。マイクを進行へ戻す。

環境省（井村）：以上で第 21 回カムイワッカ部会を閉会とする。

以上